

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4090500119		
法人名	医療法人 かん養生クリニック		
事業所名	グループホーム こもれび		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区湯川新町3丁目7-1 (電話) 093-931-1101		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年11月12日	評価確定日	平成21年12月14日

【情報提供票より】(平成21年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 人, 常勤換算 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 2階建ての 1階部分		
------	------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000円・67,000円	その他の経費(月額)	水道・光熱費 18,800円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(370,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	一月 40,000円	欠食 一食 400円	

(4) 利用者の概要 (8月31日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	4名	要介護2	5名
要介護3	名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84.4歳	最低 80歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人北九州病院・北九州総合病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

貴山を展望し、田畑の点在する長閑な住宅地に、グループホーム「こもれび」はある。法人として多様な医療・福祉事業を展開しており、その連携を日々の健康管理や職員育成へとつなげ、サービスの向上への取り組みを充実させている。認知症専門医である当法人の代表により名付けられた「こもれび」は、「こもれびの温かな日の中で、光と希望に満ちた生活を、地域の一人として穏やかに過ごして頂けるよう努めます」という理念を掲げ、管理者・職員は日々の暮らしの中で、入居者一人ひとりの方々に寄り添いながら、理念の実践に努めている。その思いが随所に表れた、優しい色調と木の温もりのある室内空間があり、開設して間もないが、入居者本位で取り組もうとするケアの姿勢からは誠実さが伝わる。隣接して開設3年目を迎えている同法人のグループホーム「こもれび」があり、日常的な交流の中で連携して運営がなされている。現在、デイケアセンターも建築中であり、地域における福祉拠点として、今後の活動・展開が楽しみとなる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初めての外部評価となる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価作成を開設以来1年間の振り返りや確認の機会とし、評価を受ける事で今後のサービスの向上に活かしていこうとする真摯な姿勢が伝わる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 2ヶ月に1回、近接する同法人の「こもれび」とともに、合同開催している。町内会長・自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員・法人理事長・看護師等の参加により、状況報告や意見交換が行われている。運営推進会議の議題や内容の工夫、また家族への積極的な参加を働きかけながら、地域との交流窓口として活用して欲しい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族の来訪時には、意見の出しやすい配慮を心がけており、コミュニケーションの機会を大切にしている。公的な相談窓口、苦情対応の窓口を重要事項説明書に明示し、ホームに掲示もしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域行事が年々少なくなってきたが、地域活動(衛生活動等)に入居者とともに参加し、地域住民としての役割りを果たすべく取り組んでいる。小学校で行なわれた夏祭りやホームでの行事、また日常的な挨拶等、少しずつ交流を育んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域密着型サービスの意義をふまえた独自の理念が、職員全員で意見を出し合いつづられている。地域との関係性について、「こもれびの温かな日の中で、光と希望に満ちた生活を、地域の一員として穏やかに過ごして頂けるよう努めます」と謳われている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念を目に付きやすい場所に掲示し、ミーティング等において確認し、その実践に努めている。職員間でつくられた理念であり、共有・浸透は図られていると思える。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	地域行事が年々少なくなってきたが、地域活動(衛生活動等)に入居者とともに参加し、地域住民としての役割りを果すべく取り組んでいる。小学校で行なわれた夏祭りやホームでの行事、また日常的な挨拶等、少しずつ交流を育んでいる。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	今回が初めての外部評価となる。自己評価作成を開設以来1年間の振り返りや確認の機会とし、評価を受ける事で今後のサービスの向上に活かしていこうとする真摯な姿勢が伝わる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1回、近接する同法人の「こもれび」とともに、合同開催している。町内会長・自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員・法人理事長・看護師等の参加により、状況報告や意見交換が行われている。		運営推進会議の議題や内容の工夫により、より活発な、率直な相互の意見交換の場となるよう、今後も継続して働きかけて欲しい。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム こもれび

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	地域包括支援センター主催のグループホーム交流会等に参加し、意見交換や情報の共有を図っている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、制度を活用している方がおり、資料を整備する等情報収集に努め、必要に応じて情報提供を行っている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	法人として毎月新聞を発行し、家族に報告している。健康状態、預かり金の明細、領収証、2ヶ月毎の処方箋と共に送付し、日々の報告を行っている。今後は独自の、もしくはグループホーム(こもれび・)合同での便りの発行等、更なる充実にも期待したい。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	家族の来訪時には、意見の出しやすい配慮を心がけており、コミュニケーションの機会を大切にしている。公的な相談窓口、苦情対応の窓口を重要事項説明書に明示し、ホームに掲示もしている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	新規採用時には入居者の方々との関係づくりに十分に配慮し、サービスの低下とならないように配慮している。法人内のバックアップ体制も整備されており、連携を活かしたマンパワーの応援がある。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢・性差無く、やる気のある職員を求めている。希望により法人内での異動も可能であり、馴染みの関係への配慮をしながら、能力を発揮し、生き生きと働きやすい職場環境づくりへの配慮が行われている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム こもれび

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	ミーティング等において、人権尊重・高齢者虐待・身体拘束等について話し合い、意識を高めている。「個人の生活に近づけるよう 個人個人を尊重し尊厳を守ります」と理念に掲げており、その実践に努めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	ホームとして月1回学習会を行い、また法人内研修や外部の研修に参加している。リハビリテーション大学の実習生を受入れており、職員にとっても学ぶ機会となっている。講習会参加希望者には勤務調整等を行い、支援する体制がある。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	他事業所との相互訪問や情報交換を行い、サービスの向上に繋げている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	母体法人である、「かん養生クリニック」を受診していた方の入居が多いため、情報の共有は行い易い。自宅訪問やホームの見学を通じて、職員や入居者の方々のコミュニケーションの機会を持ち、安心して入居となるよう個別の対応を行っている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中で、同じ時間を共有しながら、料理の仕方や昔の歌など、教えてもらうことも多く、またそういった場面が多くもてるよう心掛けている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム こもれび

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者・家族との関わりの中から、希望、意向を聴けるよう努力がなされている。センター方式を一部活用し、生活歴等の把握に努めている。職員間の「気付き」の集約も含め、アセスメントを更に介護計画へと反映させて欲しい。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見をふまえ、担当者会議等における関係者との話し合いを行いながら、介護計画が作成されている。開設して間もないが、入居者本位で取り組もうとするケアの姿勢は十分に伝わる。		アセスメントを一つの根拠としながら、更に個別性ある介護計画作成につなげるよう取り組んで欲しい。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリング、毎月のミーティング等で情報を共有し、常に一人ひとりの把握に努め、変化を見逃さない支援に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体である医療法人との連携が充実しており、作業療法士・理学療法士等の専門的なアドバイス等を受けられる環境がある。理美容の利用等、本人・家族の希望に柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を大切に、適切な医療が継続して受けられるよう支援している。法人代表は認知症専門医であり、母体法人との連携を活かした日々の健康管理は、入居者・家族の安心につながっている。		

グループホーム こもれび

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期にむけて、家族の意向を把握するために、アンケートを実施している。家族や主治医、医療関係者との話し合いを重ねながら、状況の変化に対応していきたいと考えている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日常的なケアの場面において、尊厳を損なうことのないよう、言葉使いや対応に注意している。記録等の個人情報に関しては、保管・管理に十分な配慮に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者一人ひとりの、生活習慣や生活リズムにあわせて、その方独自の時間が過ごせるよう、柔軟な支援に努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事の準備等を職員と共にいながら、一人ひとりの力を発揮してもらっている。職員も一緒に同席して食事をし、会話が弾んでいた。献立表も個々の嗜好を把握しながら作成されている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本として、一日おきの入浴日の設定はあるが、希望や状況に柔軟に対応している。入浴を拒否する方にも、タイミングや対応に変化をつける等、試行錯誤しながら無理強いとしないよう支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム こもれび

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の方々一人ひとりの力を活かせるよう、それぞれの場面での役割を見つけ出し、支援を行っている。また外出の企画をたてたり、レクレーション等により気分転換を図っている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	ホーム周辺は歩道の無い道幅の狭い道路が続き、交通量も多いため、気軽に散歩が出来る周辺環境ではないが、できる限り希望に沿えるよう支援している。今後は畑での野菜づくりや、花を育てることができるよう、敷地内の整備についても計画している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	鍵をかける事の弊害は充分認識しているが、開設以来、門扉も含めた検討が重ねられており、周辺環境から安全面を優先し、希望にあわせた開錠を行っている。夜間戸締りを気にする方には、居室の鍵をかけてもらい、プライバシーに配慮しながら、家族の了解のもと安否確認を行っている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回消防訓練を行い、訓練前には地域への案内も行っている。総合訓練及び地震を想定した訓練が行われ、また近隣の派出所に、入居者の方々を把握してもらい、連携を図っている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事・水分摂取量を記録し、また排泄状況も把握しながら、健康管理につなげている。個々の状況や嗜好に、柔軟に対応している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム こもれび

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	「こもれび」を参考にしながら、各所に工夫が行われている。「こもれび」のホーム名の通り、やわらかな陽が差し込む、やさしい色調の室内空間となっている。居間は床暖房となっており、快適性・安全性に配慮されている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室のドアの色やデザインは、それぞれ個別性があり、室内のカーテンも希望の色となっており、。2階部分には家族がいつでも泊まれる様、トイレ付きの部屋が用意されている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			